

鹿児島県がん教育モデル校としての取組

鹿児島市立宇宿小学校

1 テーマ

正しい知識を身に付け、健康への関心を高め、かけがえのない生命を尊重する態度を育てるがん教育の実践

2 公開授業研修会について

(1) 日 時 令和4年11月17日(木)

(2) ねらい

「がん教育」を通して、自他の命の大切さに改めて気づき、これからの生き方について考え、健康で安全な生活を送れるよう、自己にあった目標をもって努力できるようにする。

(3) 内 容 授業参観(第6学年 学級活動「病気とわたしたち」)、全体研修会

(4) 参観授業について(裏面 学習指導案参照)

NPO法人がんサポートかごしまとの共同授業に際し、ZOOMによる2度の打合せを行う中で、配慮事項の確認や双方の意向について確認し、授業の組立を行った。授業は、がんサポートの方々的主导で行い、授業終盤において担任が今後の生き方に繋がるよう目標を立てさせる場面を設定した。

(子供の感想)

- ・ これからは「一人で抱え込まないでよい」という気持ちを大切にしていこうと思った。
- ・ いのちは大切に一度しかもらえないものなので、辛いことがあっても勇気をもっていきたい。

(5) 全体会について

がん教育について幅広く周知することを目的とし、鹿児島市内各小学校への案内を出した。他校から23名の参加者と本校28名の職員での全体会は、グループ討議で各校の取組状況や課題を共有する場を設けた後、県教委と市教委からの指導を仰ぐ形でを行った。

(参加者からの意見)

- ・ がん教育の位置付けを明確にし、継続して実施することで、職員や子供たちの意識も変わってくる。
- ・ 様々な家庭環境の中で生活している児童がいる中で、必要な配慮を授業者が理解していかなければならない。また、授業内容と子供の変容を保護者とも共有していきたい。



3 成果と課題

(1) 成果

- ・ NPO法人がんサポートかごしまの方々から聞く生きた言葉は、子供たちの胸に突き刺さるものであったことが子供たちの感想から十分にうかがえる。
- ・ 市内より多くの先生方が参加した授業後の全体会ならびにグループ討議において活発な意見交換がなされたことからがん教育に対する意識の深まりが感じられた。

(2) 課題

- ・ NPO法人がんサポートかごしまと連携した「いのちの授業」を実施する場合、教科領域のねらいに照らし合わせた内容になるよう教育課程を編成していく必要がある。
- ・ 小学校期におけるがん教育は「いのち」に特化して取り組む形が多い。保健領域では、がんだけを取り扱うわけではなく深く伝えることが難しい。正しい知識を教えるための指導の在り方についても検討していく必要がある。